

要旨

海外にある日本人のための学校を「日本人学校」という。日本人学校は文部科学大臣から、国内の小学校、中学校、若しくは高等学校と同等の教育課程を有する旨の認定を受けており、卒業者は国内の高校・大学の入学資格を持つ。筆者が中高生の間通学していたこの「日本人学校」はどのようにして誕生したのか、海外に在るといふその特異性から、どのような特徴があり、どのような役割を担いながら教育を行っているのか。又、教育を行って行く中でどのようなことが課題として挙がってくるのか、学校を運営するに伴いどのような課題を抱えているのかを明確にしたいと思い、日本人学校の教育実践・学校運営の研究を始めた。本論文の目的は、その日本人学校の特徴や役割、さらに日本人学校が抱える課題を研究し、検討・報告することにある。海外に在るといふその特殊な環境を活かし、又、日本人が通う学校であるという特徴も活かしながら、海外らしさと日本らしさが共存する学校が、日本人学校である。海外という環境の中で教育を受け、日本人としての資質も得られていくため、日本人学校には子どもの国際感覚を養う、国際主義の基礎的教育を行っていくという役割があるのだと考える。これらの役割を有する日本人学校はグローバル化が大きく謳われる昨今において、大きな役割を担っていると言えるのではないだろうか。日本人学校で教育を受けた子どもたちが、グローバル化していく日本において将来、そのフロンティアとして活躍できるようになっていくのではないかと考える。今回の研究論文では様々な国の日本人学校を例に挙げその特徴や役割を記したが、在外教育施設である日本語補習校との比較や現地校・国際校との比較はしておらず、その役割の違いについては研究しきれていない。故に、日本から見た日本人学校の役割は研究できたが、海外における日本人学校の役割は研究しきれていないため、今後研究していきたい。又、欧州にある日本人学校においても例として挙げていないため、欧州にある日本人学校の研究も重要である。